

病院の立場から考える微生物検査の標準化と課題

◎村 竜輝¹⁾
金沢医科大学病院¹⁾

検査の標準化とは検査結果が一定の水準・レベルを示すことであり、自動分析装置で測定を行う血液検査や生化学検査では標準化が進んでいる。微生物検査は他に比べて用手法による検査プロセスが多く、各プロセスの中で判定、評価、釣菌基準は各施設によって様々であり他の分野に比べて標準化は進んでいないのが現状である。当院においても各プロセスで、演者が入職時に既にあった出典不明の独自の基準・ルールを採用しているものは多い。

一方で2018年12月に検体検査の品質・精度確保に関する医療法等の一部を改正する法律が施行されたことや、ISO15189等の第三者認定を取得する施設の増加で微生物検査においても精度管理や標準化は少しずつ浸透し始めている。近年は関連学会で微生物領域の精度管理や標準化のシンポジウム等が毎年企画されており、日本臨床微生物学会は微生物検査標準化検討委員会を設立している。微生物検査の標準化に向けて参考となるガイドラインや書籍は少ないため、今後の結果に期待したい。

施設においてどのような基準・ルールを採用していても、それを基に検査技師が一定の検査結果を出せなければ意味はない。当院においては技師間差を無くし、検査結果の標準化のため以下の取り組みを行なっている。

- ・新人の教育プログラムの策定と到達度目標の設定・評価
- ・同一標本を用いたグラム染色と抗酸菌染色の目合わせを毎月実施(全員)
- ・薬剤感受性検査で使用するプロンプト法の菌数確認を毎月実施(全員)
- ・全ての外部精度管理検体は全員がそれぞれ検査を行い結果・報告のバラツキを確認する
- ・経験年数にかかわらず何でも相談・共有できる環境

微生物検査結果は患者の治療方針決定だけでなく、適切な感染対策実施の有無にも関わるため、標準化された検査結果の提供は重要である。微生物検査の標準化を考える好機としたい。

連絡先：076-286-3511(内線 25330)